

兵庫教育大学大学院学校教育研究科

特別支援教育専攻



障害科学コース URL:
https://www.hyogo-u.ac.jp/course/dis_sci/

発達障害支援実践コース URL:
https://www.hyogo-u.ac.jp/course/spe_edu/

大学院特別支援教育専攻募集・入試について 募集人員：障害科学コース20名（昼間クラス・フレックスクラス） 発達障害支援実践コース10名（昼間クラス）

8月選抜試験	出願期間：令和8年 7月 1日(水)～ 8日(水) [必着]	試験日：令和8年 8月22日(土)
11月選抜試験	出願期間：令和8年10月 7日(水)～14日(水) [必着]	試験日：令和8年11月21日(土)
2月選抜試験	出願期間：令和9年 1月21日(木)～27日(水) [必着]	試験日：令和9年 2月27日(土)

兵庫教育大学大学院 特別支援教育専攻とは？

特別支援教育専攻には【障害科学コース】と【発達障害支援実践コース】の2コースあります。

【障害科学コース】では、視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、病弱、知的障害、発達障害等、あるいはそれらを含めた重度・重複障害のある児童生徒の発達とその特性についての理解を深め、さらに、教育、心理、生理・病理、支援方法についての総合的・専門的な教育研究を行います。障害科学コースには昼間クラスとフレックスクラスの2つがあります。

【発達障害支援実践コース】では、①特別支援教育コーディネーター、②発達障害通級指導教室担当者、③発達障害等をふまえた授業づくりの工夫を目指す通常学級担任の育成を地域の学校現場実習を通して行っています。ストレート院生の方は、③を中心に学びます。

障害科学コースでは
フレックスクラスを
開設しています！
詳しくは大学HPにて！

障害科学コースの専門分野授業科目

- 【特別支援教育の基礎理論】 特別支援教育研究 特別支援教育史
 【心理・生理・病理など】 障害児病理 障害児診断学 障害児心理学研究
 障害児保健研究 視覚障害児心理学研究 視覚生理・病理 聴覚・音声検査法
 聴覚障害児心理学研究
 【教育課程・指導法など】 障害児教育基礎技能 特別支援教育課程論
 肢体不自由児指導論 病弱児指導論 視覚障害児指導法 視覚障害児教育論
 聴覚障害児教育基礎技能 聴覚障害児指導法
 【重複・LD等】 発達障害研究 (LD、ADHD、自閉症スペクトラム)
 重複障害児指導論 言語病理学
 【専修免許科目】 特別支援教育実践論 特別支援教育特論 障害児
 生理特論 行動障害支援論 特別支援教育方法演習 特別支援心理学
 研究方法演習 特別支援教育事例研究 視覚障害児心理学特論 聴覚言語
 障害児臨床 (※発達障害支援実践コースの授業は別紙参照)

教員免許状

- 障害科学コース（昼間クラス）では、教員免許状取得の資格が得られるように授業科目を開設しています。免許状の種類は以下の通りです。
- 幼稚園・小学校・中学校・高等学校教諭の普通免許状を取得している方
→特別支援学校教諭免許状【5領域：視覚障害者・聴覚障害者・知的障害者・肢体不自由者・病弱者】の「1種・2種」を取得することができます。
 - 特別支援学校教諭免許状（1種）を取得している方
→専修免許状の所要資格を得ることができます。

学会資格

以下の認定資格の受験資格取得に対応した授業科目の一部が開講されています。詳細は、以下のホームページをご覧ください。

- ・学校心理士 (url : <http://gakkoushinrishi.jp/>) ※ 障害科学コース (昼間クラスのみ)
- ・臨床発達心理士 (url : <https://www.jocdp.jp/>)
- ※ 障害科学コースと発達障害支援実践コースの昼間クラスのみ
- ・特別支援教育士 (url : <http://www.sens.or.jp/>) ※ おもに発達障害支援実践コース

兵庫教育大学大学院 特別支援教育専攻 Q&A

- Q1 兵庫教育大学はどんな大学ですか？**
 A：兵庫教育大学は「新構想の教員養成大学」で、教員の資質能力の向上を目指しています。本学大学院修士課程の特別支援教育専攻では、障害児の教育に関する高度な研究・研鑽の機会が確保されています。
- Q2 障害科学コースで何ができますか？**
 A：障害科学コースでは、障害児の成長と発達とその特質の理解のもとに、障害児の教育、心理・生理、指導法等に関する総合的、専門的な教育研究を行っています。大学院生は講義、演習、事例研究、課題研究（修士論文指導）などを通して専門的な知識を深めることができ、それを基に研究を進めて学位論文を作成することになります。所定の単位を取得し学位論文の審査に合格すると修士（学校教育学）の学位が授与されます。
- Q3 障害科学コースの特色は何ですか？**
 A：特色の一部を挙げると、
 ・現職教員の大学院生が多く、全国の学校との人的ネットワークが活用できます。
 ・発達心理臨床研究センターが併設されており、そこでも臨床的・実践的教育の研究を行うことができます。
 ・教員の専門分野が幅広く、多様化、重複・重度化する障害児についても、総合的な教育研究が可能です。
- Q4 障害科学コースと発達障害支援実践コースの違いは何ですか？**
 A：障害科学コースでも、発達障害のある子どもへの指導法などに関する研究に取り組むことができますが、発達障害支援実践コースでは、学校における長期実習を通して、通級指導や通常学級の授業づくり・学級経営の実践力向上に力を入れています。
- Q5 障害科学コースのフレックスクラスの特色は何ですか？**
 A：現職教員を対象にしたクラスで、大半の授業をオンライン授業（同期型・非同期型）で受講でき、長期履修（3年間）も可能です。ご自身の特別支援教育に関する実践的課題について研究できます。3年以上の経験がある現職教員であれば、特別支援学校教員免許状（3領域・1種）の取得ができます（各都道府県教育委員会に確認の必要有）。
- Q6 障害科学コースの修了者の進路は？**
 A：現職教員は、再び教育現場に戻ります。ストレート学生は、特別支援学校教員、小中学校教員、公務員心理職、福祉施設指導員などに就職しています。また、本学大学院連合学校教育学専攻科博士課程（後期3年）へ進学する道も開かれています。
- Q7 入学案内はどこに問い合わせればいいですか？**
 A：大学に直接に電話か、ホームページにアクセスしてください。
 〒673-1494 兵庫県東加東市下久米942-1
 兵庫教育大学・入試課 電話：0795-44-2067
 ホームページにアクセス (<https://www.hyogo-u.ac.jp/>)

障害科学コース担当教員



井澤 信三

障害のある子どもたちとの実際のなかかわりから、研究ははじまると思います。そのなかかわりの中で、出会った課題を大切に、自分で整理・分析し、それに対してどのように支援していくかを考える力が大切だと思っています。いっしょに臨床と研究をしましょう。そして、より多くの方々「障害」に関して理解と支援を深めることができるようがんばりましょう。

専門領域 発達障害臨床心理学・応用行動分析学

e-mail : isawa@hyogo-u.ac.jp url : http://www.edu.hyogo-u.ac.jp/isawa/



石井 智也

インクルーシブ教育における特別ニーズ教育・特別支援教育のあり方・方向性を検討するために、子どもの多様な困難やニーズに応じた特別な配慮や対応が歴史的にどのように取り組まれてきたかを明らかにしてきました。現代においても、障害の有無を問わず子どもは様々な発達困難・リスクを有しています。子ども一人ひとりの声に基づいた発達・教育支援のあり方について、教育史や教育制度・政策、教育課程、教育実践、国際比較等の多角的な視点から、院生・学生のみならずと一緒に研究に取り組んでいきたいと考えています。

専門領域 特別支援教育学・特別ニーズ教育学

e-mail : tishii@hyogo-u.ac.jp



石倉 健二

障害のある乳幼児から成人の「発達」と「生活」の支援について、主に心理学の立場から考えています。最も得意とする手法は動作法と心理リハビリテーションです。最近では、協調運動困難の評価と支援、自立活動について中心的に取り組んでいます。臨床心理士、理学療法士、介護支援専門員の資格を持っていますので、教育・医療・保健・福祉の連携や、家族支援・地域支援も得意としています。研究と臨床の対象とフィールドは幅広く展開しています。

専門領域 リハビリテーション心理学・障害児(者)心理学

e-mail : kenji@hyogo-u.ac.jp url : http://web.hyogo-u.ac.jp/kenji/



三枝 里江

多様な特性を有する聴覚障害児の視点を尊重しながら、教育・学習環境の在り方を探究し、共生社会の実現に向けた障害学生支援を目指しています。障害のある学生が障害のない学生と等しく学ぶためには、周囲の学生の主体的な関わりが不可欠です。そのためには障害に対する正しい知識と理解、そして実践的な経験が求められます。また、支援に関わる学生自身も、その経験を通して大きな学びを得られると考えています。相互理解を深め、共に学び合う関係の構築を目指しています。

専門領域 聴覚障害心理学・障害学生支援

e-mail : ssaigusa@hyogo-u.ac.jp



丹所 忍

見えない・見えにくい子どもへの支援を中心に、すべての子どもにとって見やすくわかりやすい支援の在り方について考えています。インクルーシブ教育の推進には、特別支援教育からの発信が求められています。実践する中で抱くふとした疑問は、研究テーマとして取り組む価値があります。ぜひ、実践と理論をつなぐ研究と一緒に取り組みましょう。

専門領域 障害児指導法(視覚障害)

e-mail : tansho@hyogo-u.ac.jp



高野 美由紀

発達相談や発達障害の診断を通して、発達に不安がある子どもとご家族を徹力ながら支援しています。また、研究では障害のある子どもと教師・支援者とのやりとりや、教師・支援者の発話にみられるオノマトペ(擬音語・擬態語)を分析しており、最近では、昔話の語りと特別支援教育とのコラボが面白いのではないかと試行錯誤しています。学生さんには、学際的にものごをみる楽しさ・大切さを体験していただきたいと思っています。

専門領域 障害児病理・発達医学

e-mail : mmurata@hyogo-u.ac.jp url : https://www.takanolabo.com



中島 武史

聞こえない・聞こえにくい子どもたちへの教育や支援について、社会言語学や障害学の視点を取り入れた研究と実践を進めています。特に社会との関係から手話やリテラシーを理解していくことに関心があります。みなさんが研究しようとしている教育的課題について、子どもたちのエンパワメントだけでなく社会の変容(アンエンパワメント)も射程に入れながら、一緒に取り組んでいきたいと思っています。

専門領域 ろう教育研究・社会言語学

e-mail : tnakashi@hyogo-u.ac.jp

【修士論文題目の例】

- ・ 中学校自閉症・情緒障害特別支援学級における進路指導の現状と課題
- ・ 重度重複障害児の教科指導に携わる教員が抱える困難に関する研究
- ・ 小学校低学年児童に対する小集団運動プログラムの有効性についての検討
- ・ 心身症・精神疾患のある児童生徒の困難に応じた教育支援の課題
- ・ 一病弱特別支援学校の実践報告の検討を通して
- ・ きょうだいの周囲との関わり合いについての事例的研究
- ・ アンコンシャスバイアスと差別体験に着目して
- ・ 知的特別支援学校高等部における外国語の活動・授業に関する実態調査
- ・ 小・中学校の特別支援学級担任が抱える自立活動における困難と専門性の向上
- ・ 場面緘黙に対する支援についての検討-当事者・家族の困難に着目して-
- ・ 個別の指導計画にかかわる取り組みと校内体制について
- ・ 実態と願いにもとづく作成と活用に着目して-
- ・ 小学校の通常学級における学級規模ポジティブ行動支援(CWPBS)の効果の検討

発達障害支援実践コース担当教員



石橋 由紀子

学校教育において障害のある子どもたちの自己決定の力を育成するためには、どのようにすればよいかについて研究しています。本講座の大学院生の方たちは、とにかく一生懸命です。時には、真剣に学ぶ大学院生の方たちに圧倒されそうになるほどです。皆さんも、「学ぶ楽しさ」を味わってみませんか。

専門領域 特別支援教育学

e-mail : ishiba@hyogo-u.ac.jp



宇野 宏幸

「障害」理解という観点から「人間」とは何なのかを探求することを心がけてます。研究については、自分がこれだと納得できるテーマを学生ひとりひとりが見つけて欲しいと思っています。修士論文を作成しながら、何が「問題」で、どのように「解決」していけばいいのかを考えていって下さい。個人的には、時間とお金の許す限り、美味しい料理とお酒を好み、美しく語るような音楽を聴いて過ごすことをモットーとしています。

専門領域 発達神経心理学

(発達障害をふまえた通常学級における授業づくり・学級経営の工夫)

e-mail : uno@hyogo-u.ac.jp url : http://www.edu.hyogo-u.ac.jp/uno/



岡村 章司

普段の実践の中に、新たな知見を見出すことができます。まさに今取り組んでいる実践をふり振り返り意味づけすることは、気づきや課題を明らかにし、新たな実践を生み出します。実践と研究は無関係ではありません。より良い実践を行うために必要な「研究」を始めてみませんか。そして、障害のある子どもや保護者から多くのことを一緒に学びましょう。

専門領域 障害児臨床心理学・応用行動分析学

e-mail : sokamura@hyogo-u.ac.jp